



中越米二

進駐軍が始めて日本にやつて来たとき、農家でイロリに薪をたいているのを見て、何んとまあ『原始的』なことぞ、と大いに日本人を野蠻視したということである。この原始的ということばには、いろ／＼の内容が含まれているようだ。

曰く

▽大切なバルブ資源を惜し氣もなく焼失している不經濟。

▽不完全燃焼で極めて非能率的事であること。

▽室内にもう／＼と立ちこめる煤煙の不快で、且つ非衛生的なこと。

▽家中を眞黒にす／＼させしてしまうこと。

などであらうか。もつと附言すれば、わが地方では幼児がよくイロリに落ちてやけどをすることや、イロリをまるでゴミ捨て場のようになり、魚の骨や茶がら、さては台所掃除の掃きすて場にさえなることがある。

こう考へて来ると、まことにイロリというものは、クダラヌ存在になつてしま

うのである。

だから生活改善を叫ぶ人たちは、改良カマドを奨励し、速にイロリを廢止せよという。

しかしだからと云つて、昔から傳わる日本の家の象徴みたいなイロリを、「おいそれ」とすぐさま廢止できるものではない。

大きなイロリに、どつしりした椿木の二、三本の交又させて、焰々と燃えさかる上に吊した万年カギにはば五升鍋をぶらさげて、牛馬のエサがくた／＼と煮え、側の鉄ひんにはチン／＼と湯がたぎつているという風情は、まことに捨て難いものがある。

そして家中のものがそのまわりに集まつて世間話をしたり、棚のラジオの聲に笑つたりしているさまは、まさに日本農家の心温い風景でなくて何であらう。

冬ともなれば客の多い農家である。即ち客があればまずイロリを圍んで、主客共々オキを突つつきながらお茶を飲み、漬物をかじつて

用談をすましていくあたり
全く以て純朴なサービスで
ある。

若しそれイロリの非科学
性を唱えて、これをまつし
ぐらに撲滅して見たまえ、
何だか家の中心が無い様で
全く物淋しいものになつて
しまふ。いつたいオトツツ
アンは、家の中のどこに坐
つたらいゝのだらう。オツ
カサン、ヨメサンはどこに
どうしていたらいゝのか。
まさか朝から晩まで改良カ
マドの前にしやがんでゐる
わけにもゆくまい。それか
ら「ハイコンチャ」と云つ
て入つて来た客は、どつち
へ向いて坐つたらいゝのか
して見ると、イロリは一
家の中の社交場でもあるわ
けだ。

そうだ。社交場であり、
園樂の場でもあり、暖房設

朝の

み
だれも出ていない朝の道ふ
しんとした朝に
雪がしずかにまいおちる
これがにんげんの國か
ぎゆくゝと
ふみつける
しんとした雪の間から汽車



倉

倉小六島田勝正

あゝこの雪の中を
大きくひびきわたる
はる
一年 鈴木みよ
はるがはやくこないか
はるがくると

しかしイロリの「原始的」なことが一役買つているものと思う。

傍觀子曰く「じやストープにしたらいゝではなからか」しかしわれは、火の燃える所を眺めながら、咄々として話すところに妙味を感じ、面と向つて相手の顔を見つめながら用談を進めるのが、どうも氣づまりであるのである。

見える火は明るく、かくした火はどうもうす氣味悪いものである。……と云うようなわけで、生活改善という仕事は、なか／＼むづかしい。

しかしむづかしいと云つて放つておくわけにはいかない。

調和の中から歩一歩と改めていくことが極めて所要のこと、と思う。

ゆきがきえるからなあはるがくると
つくしもでると
まゝごとをしられるな

ふでいれ

三年 鈴木 玉榮

せつ子さんがふでいれをかつた
あかと白のしまもようだ
わたしもあたらしいのをかつてもらいたい
けれど

まだいたまないのであるのに
かつてもらえば
ふるしいふでいが
かわいそうだ
わたしはまだふるしいのを
つかおう

ストーリー

四年 桑原健太郎
運動場にたつてゐる
足がつめたくなつた
教室に入ると
ストープがもしてあつた
あたつた のつとい
運動場に出るのがいやに
なつた
がまんしよう
運動場にくくとぞーつと
した

予算編成
に追われた
ため結局予
算成立をま
つたような
ことになつて了いました。

昭和三十一年度は機構整
備のため通計四回の發行で
終つたことは、理由の如何
を問はず誠に申譯けなく、
明年度の努力をおちかいし
てお詫び申し上げます。

特に要望もあり今月より
一村政を担う人々」の欄を
設けました。熟讀頑味願
います。

總額一千三百七十四万円

な
か
さ
ふ

發行所
中里村公所
印刷所
十日町新聞社

昭和三十一年度中里村一般會計及び特別會計予算は、去る十日の定例村議會において、原案通り決定された。

交付税三八%

昭 ます歳入の面から
見ると、村税の一千三百十
九万円は、昨年度に比し二
十一万円の増であるが、こ
れは固定資産税、村民税そ
の他の自然増で、地方交付
税を九百十四万円におさ
い、他の公營企業及び財産
収入、使用料、手數料、國庫
支出金は手堅く、昨年の如
く見込みではなく、最底に
おさえているのは、健全財
政の上に立つての方針であ
り、これらが今後増徴され
れば、重点的に土木、産業
の面に投入する考えのよう
である。

教育優先

歳出面では、村作りの基盤は教育にあるということから、教育費が最も多く、全体予算の二七%で六百五十万円、この中には近く改築を予定される高道山小学校の補強費二十万円が含まれているが、へき地教育の振興に重点がおかれている。

以下項を追つてみると、議會費の二十九万円は最低必要額であるが、役場費の五百八十四万円は二十六・六%にあたり、當面止むを待ずとはしても、大いに考究の余地があるのではなからうか。

次に消防費の九十九万円は、角間に可搬ポンプ一台購入、朴木澤に鉄骨火の見やぐらの建設等が目立つたもの。

如来寺 柳 義 太 郎

今や生活文化と云う言葉は、前世紀の遺物的にこの山村僻地の私達の耳にさえ聞き、公民館活動等を通じて、諸々の方策を以て推進されて來ているが、その成果たるや、誠に寒心に耐えない。

むしろそれと逆行するが如き点もなきにしも非ず、といつてもそれは一部分に過ぎないが、幸にして農村に生を受けた私は、此の機

※ 三行知識 ※

かたい牛肉を軟く煮るには、大豆五、六粒と一しよに煮ると軟かになります。

~~~~~

は、村の財産維持のための最低額、その他統計費の十一万円、選挙費の十三万円、村償還金九十九万円、諸支出金二百六十三万円、予備費五十七万円となつてゐるが、諸支出金の二百六十三万円は、全体予算の一二%に當り、手離しにはおれない大問題で、各種協議會等の統合整備が叫ばれてゐることは當然であらう。

## ふでいれ

三年 鈴木 玉榮  
せつ子さんがふでいれを  
かつた  
あかと白のしまもようだ  
わたしもあたらしいのをか  
つてもらいたい  
けれど

## ストリープ

四年 桑原健太郎  
運動場にたつてゐる  
足がつめたくなつた  
教室に入ると  
ストーブがもしてあつた  
あたつた のつとい  
運動場に出るのがいやに  
なつた  
がまんしよう  
運動場にくいとぞーつと  
した

しも當然とする所であらうが、私は問題は其の一步前にあると思われるのである。

即ちみんなが村の實態を良く知る事である。

實態を知らんで自分勝手な弁をはいても、村全体の力となつては現われて來ない。

村民全体が村の發展の爲には、此の問題からでなければならんと云うように一致してこそ力となるのであるが、現状は或者は上越西線を論じ、或る者は段丘地開發を論じ、或る者は十二線、觀光地、町村合併郡市計畫等々、様々に論じて居る様である。

又某新聞は、最近の中里村の將來性を躍進的に、しかも現實的に報じている。

例えば綜合開發による農村二、三男対策、鐵道と町村合併による一大都市化遠からじとか、清津峽と十二線をむすぶ事によつて、經濟的發展等、どの一つとしても大きな問題であるけれども、徒らに四方八方に事業計畫を立てる事は、國及び地方自治体の財政を考えなければ、一舉に望むことは出來ないことである。

先ず第一に村民一人一人が最も必要とする事業から

打出して行くべきではなからうか。

しかしそれは何んといつても、十二線の開鑿であると思う。

即ち交通上、否文化の根底をなすものは道路であるからである。

十二線が開かれることによつて觀光地事業による村の財政をうるおし、奥地資源の開發も出來、その使命と共に、上越西線誘致も可能となつて、都市計畫人口問題が大きくアツプするは必然で、勢い段丘地總合開發となつてくることは、自然現象である。

そこで初めて躍進中里村の實現となる。

何處の村や都市の發展史を見ても一つのルートがある。

途中から打出しても決して満足な成果を得ることは出來ないであらう。

換言すれば正しいルートに従つて運動することこそ大きな政治力となり村の振興への道が開けるのである。



